平成 20 年 7 月 1 日
第 14 号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 原田憲一郎
電話 972・7602

今度は安心 水路の点検



水路まで楽々と降りられようになった歩行板の上に今回の作業者全員が乗ってみた

水路の管理は大事な仕事ですが、地区北側（大森と呼ばれている地区）の農道沿いは道と水路との高低差が数メートルあるために、関係者は随分苦労しておられました。

6月8日、用水ポンプ稼働を目前に控えて、降り口に歩行板を取り付けました。

天候などによってはロープを使って下りていたという方もおられましたので、これで作業の安全が少し確保されました。また、簡単な手摺も取り付けました。

今回も共同作業で実施しましたので、短時間で完了しました。

どうやって植えるんですか



上郷小学校の２年生を前に苗の作り方を説明する

6月17日、市立上郷小学校（松田伸宏校長）の2年生83名が校外学習の一環として水田の仕事の様子を見学にやってきました。

水田の作業の工夫や苦労を知り、農業を身近に感じることが、今回の学習の狙いの一つです。始めに田植機用の苗作りを説明しました。日頃なんでもなく行っていることでも、児童に取っては初めて見るものがたくさんあります。質問が次々に出ました。

「苗箱の底に敷いた新聞紙は

どうなるんでしょうか」「食べられるお米と稲になるお米は違うのでしょうか」児童の質問は予想外です。

次に、実際の田植えの様子も見学しました。殆どの水田が田植えを終えていましたが、この見学用に重富賢二さんの水田を用意していただきました。

田植機の作業を見てからの質問もたくさんありました。「田植機はどうやって稲を植えているのですか」「田んぼに水が溢れるほどの雨の時はどうするのですか」とうとう時間切れで質問をお断りするほどでした。

今回の学習の狙いに「疑問点などを追求する態度を養う」というのがありました。質問への説明が十分でなかったかも知れません。分からないことを知ろうとする姿勢には答えたつもりです。農業をしっかり見てくれると良いですね。



何にでも興味のある２年生はいろいろなものに触れる

水の値段は一体いくら

農業用水を巡る激しい競争が世界各地で起こっている

原油価格の高騰は誰にも影響してきています。直接的な燃料費だけでなく原材料の価格も押し上げています。肥料の価格も大幅値上げは避けられないとのこと、農業環境は益々厳しくなります。

先日放送されたＮＨＫ番組「クローズアップ現代」では国際的な農業用水の価格上昇を取り上げていました。いわゆる水利権の取引によって、大規模で大きな資本力のある農産企業が、水利権を買い占めたり、つり上げたりして一般農家に水が渡らなくなっているという現状でした。

広い国土のオーストラリアでは水の取引にメガリットルという単位が使われていました。百万リットル（１０００トン）という意味です。メガリットルが日本円で二万四千円でした。十分な水を確保できない生産者は収穫できないという厳しさです。

また、確保した水を効率よく使用するために、水の必要量の少ない作物に転換して収益を上げて行くというやり方でした。かっての大型スプリンクラーで周辺を灌漑して行くという時代とは打って変わったということです。

もしもこの値段を八方原地区の用水に当てはめるとどうなるか試算してみましょう。八方原の用水ポンプは一分間に10トンの水を汲み上げます。１時間で６００トン、10時間で６０００トンとなります。これを１０００トン二万四千円で計算すると、十四万四千円、つまり一日十数万円の水利権を行使していることになります。



この環境をどう捉えるかは、さまざまだと思いますが、貴重な水資源を有効に、大切に使って行くことが重要ではないでしょうか。

お互いを知ろう　子ども会と老人会ふれあい会

八方原老人会では、地域見守り隊として、下校時の小学生を見守る活動が始まりました。

世代も大きく異なり、地域の児童と高齢者が互いに知る機会は少なくなっています。見守り活動をより効果的に行うために、６月22日関係者が集まってお互いの顔合わせを行いました。



自己紹介はちょっと照れる

まず、それぞれが自己紹介を行いました。なかなか一度では覚えられませんが、こうした機会が必要でしょう。

その後は話し合いに移り、いろいろな意見や提案が出ました。無理せず、長続きできることが重要です。

日赤社資に協力ありがとうございました

赤十字活動資金の募集につきましては、多くのみなさまのご協力誠にありがとうございました。おかげをもちまして当地区では四万一千五百円もの社資が集まりました。

過日、小郡総合支所内の日本赤十字小郡分区事務局に持参いたしました。

多くのみなさまの善意が赤十字の活動に役立つと思います。

福祉・募金委員　原田悦子